

# 生体試料を用いた化学物質ばく露評価研究

日時：2022年1月27日（木）15:00～17:00（Zoom開催）

<https://zoom.us/j/97664021353?pwd=L0dtSko2eEZRYU9JT1p4K1dFY01qdz09>

ミーティングID: 976 6402 1353 , パスコード: 479436

胎児や乳幼児は成長発達の過程にあるために化学物質による影響を受けやすいと考えられており、環境省の「子どもの環境と健康に関する全国調査（エコチル調査）」でも、既に妊娠中の化学物質ばく露と子どもの成長・発達との関連について報告されています。エコチル調査では、血液や尿などの生体試料中の化学物質濃度と健康影響との関係を明らかにしますが、多くの化学物質について、ばく露源（経路）や体内での動き（動態）について情報がいないため、ばく露を減らすための対策を講じることが困難な状況です。本シンポジウムでは、化学物質ばく露を評価する方法や体内での動態に関する研究の紹介を通じて、ばく露評価研究が将来の私たちの暮らしにどのように貢献できるのか議論します。

15:00-15:20 開会あいさつとLaMerにおける化学物質ばく露評価の取り組み  
国末達也（愛媛大学）

15:20-15:40 出生後の水銀ばく露  
岩井美幸（国立環境研究所）

15:40-16:00 生体試料分析による殺虫剤や忌避剤のばく露評価法  
上山純（名古屋大学）

16:00-16:20 化学物質の曝露評価—環境モニタリングと生物学的モニタリング—  
小栗朋子（産業技術総合研究所）

16:20-16:40 化学物質のリスク評価に必要な体内動態研究  
磯部友彦（国立環境研究所）

16:40-17:00 質疑・総合討論（進行：国末達也、磯部友彦）

問い合わせ先：

愛媛大学沿岸環境科学研究センター 化学汚染・毒性解析部門

教授 国末達也 TEL: 089-927-8162

E-mail: kunisue.tatsuya.ew@ehime-u.ac.jp

愛媛大学沿岸環境科学研究センター 化学汚染・沿岸環境研究拠点（LaMer）「生体試料を用いた化学物質曝露評価に関するシンポジウム」

（独）環境再生保全機構 環境研究総合推進費5-2003「化学物質体内動態モデル及び曝露逆推計モデル構築システムの開発」

食品安全委員会 食品健康影響評価技術研究「新生児期から乳幼児期におけるメチル水銀の曝露評価」（JPCAFSC20202003）